

2. 2023 年度事業計画について

① 2023 年度定時総会について

2023 年度 公益社団法人日本栄養士会定時総会 開催概要(案)

日 時 2023 年 6 月 24 日(土)～6 月 25 日(日)

場 所 新大阪ワシントンホテルプラザ レ・ルミエール
大阪市淀川区西中島 5-5-15 Tel.06-6303-8111

構成員 代議員

日 程

第 1 日 6 月 24 日(土)

12:00～13:00 受 付

13:00～14:00 特別講演「未定」

14:00～16:00 議 事

(14:00～14:20) 開 会

会長挨拶

議長団選出・議事録署名人選出・書記団指名・会議運営委員指名

総会成立宣言

(14:20～15:00) 第 1 号議案 2022 年度事業報告、貸借対照表、損益計算書(正味財産増減計算書)および財産目録の承認の件 (提案)

(15:00～15:20) 第 2 号議案 役員報酬承認の件 (提案・採決)

(15:20～15:30) 第 3 号議案 名誉会員承認の件 (提案・採決)

(15:30～16:00) 協議事項 2023 年度事業計画、予算について (提案)

18:30～20:30 情報交換会 (新大阪ワシントンホテルプラザ サファイヤホール)

第 2 日 6 月 25 日(日)

8:30～ 受 付

9:00～ 9:20 総会式典

・来賓挨拶 (厚生労働大臣、大阪府知事) ・祝電披露 ・名誉会員の証授与・宣言 (案) 採択

9:20～12:00 議 事

(9:20～10:30) 第 1 号議案 2022 年度事業報告、貸借対照表、損益計算書(正味財産増減計算書)および財産目録承認の件 (討論・採決)

(10:30～11:00) 協議事項 2023 年度事業計画、予算について (討論)

(11:00～12:00) 協議事項 公益社団法人日本栄養士会の重要課題 (未定)

12:00 閉 会

「栄養の日・栄養週間 2022」実施報告



- 1. 期間** 2022年8月1日（月）～7日（日）を中心とした6月から8月
（「栄養の日」：8月4日、「栄養週間」：8月1日～7日）「栄養の日」の制定理由：7月31日栄養改善法公布、8月1日公益社団法人日本栄養士会設立日、8月2日健康増進法公布など、栄養ならびに日本栄養士会に関連する記念日が多数あるこの時期に、一般生活者に親しみをもつていただくことを目的とし、8（エイト）と4（よん）で、「えいよう」の日としました。
- 2. 統一テーマ** 栄養と環境 ―地球を元気に、未来を笑顔に―
- 3. 趣旨** （公社）日本栄養士会は2016年に、全ての人の健康の保持・増進の実現に向けて、「栄養の日（8月4日）」、「栄養週間（8月1日～8月7日）」を制定しました。

2021年12月、SDGsの達成に向けて「東京栄養サミット2021」が開催されました。今、世界の関心事は持続可能でよりよい世界であり、地球上の誰一人取り残さないことが宣言されています。さなか、2030年、さらにその先の未来を描くうえで栄養状態の改善、栄養問題の撲滅は絶対であり、外務省でも、「栄養状態の改善は、17ある持続可能な開発目標（SDGs）の目標2に該当し、さらにその他計12の目標達成に深く関係します。保健分野だけではなく、農業や流通、水・衛生、ジェンダーなど多くの分野と関連しているため、各分野が連携して栄養改善を進めることがSDGs達成に不可欠です。」とされています（ホームページより）。サミットでは、各国政府ほかステークホルダーによりこうした具体策について協議、コミットメントとして発表されました。

2022年、管理栄養士・栄養士は「栄養と環境」について考えます。日本栄養士会は、栄養・食生活の営み、生産、畜産、加工、保存、配送、流通、料理、食事、廃棄のなかで、食・栄養の専門職としての環境問題への対応を推進します。2022年度「栄養の日・栄養週間」では、全国の管理栄養士・栄養士とその職能をもって、地球を元気に、未来の笑顔の実現を目指します。管理栄養士・栄養士でなければならない、エビデンスにもとづいた情報提供をしていきます。栄養の専門職が丸となりできること、今こそ世界に、「栄養のチカラ」を届けるよう、国民との接点を発信します。「栄養の日・栄養週間 2022」では、これらを宣言するとともに、管理栄養士・栄養士の活動の場で国民運動として活動していきます。

4. 主 催 公益社団法人 日本栄養士会、47 都道府県栄養士会

5. 後 援 厚生労働省、外務省、農林水産省、文部科学省、環境省、消費者庁、内閣府食品安全委員会、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター、公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本歯科医師会、公益社団法人日本薬剤師会、公益社団法人日本看護協会、公益社団法人日本理学療法士協会、一般社団法人日本作業療法士協会、一般社団法人介護支援専門員協会、公益財団法人健康・体力づくり事業財団、公益財団法人骨粗鬆症財団、公益財団法人児童育成協会、公益財団法人食品等流通合理化促進機構、一般社団法人全国栄養士養成施設協会、公益社団法人全国学校栄養士協議会、社会福祉法人全国社会福祉協議会、公益社団法人全国老人福祉施設協議会、公益社団法人全国老人保健施設協会、公益社団法人全日本病院協会、一般社団法人日本アレルギー学会、特定非営利活動法人日本栄養改善学会、一般社団法人日本栄養学教育学会、公益社団法人日本栄養・食糧学会、一般社団法人日本癌学会、日本給食経営管理学会、日本外科代謝栄養学会、一般社団法人日本健康・栄養システム学会、特定非営利活動法人日本高血圧学会、一般社団法人日本骨粗鬆症学会、一般社団法人日本在宅栄養管理学会、一般社団法人日本サルコペニア・フレイル学会、一般社団法人日本循環器学会、一般社団法人日本小児アレルギー学会、一般社団法人日本小児臨床アレルギー学会、一般社団法人日本食育学会、一般財団法人日本食生活協会、公益社団法人日本食品衛生協会、一般社団法人日本腎臓学会、特定非営利活動法人日本スポーツ栄養学会、公益財団法人日本スポーツ協会、一般社団法人日本摂食嚥下リハビリテーション学会、公益財団法人日本知的障害者福祉協会、一般社団法人日本透析医学会、一般社団法人日本糖尿病学会、一般社団法人日本動脈硬化学会、公益社団法人日本認知症グループホーム協会、一般社団法人日本病院会、一般社団法人日本病態栄養学会、一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会、一般社団法人日本臨床栄養学会、一般社団法人日本臨床栄養代謝学会、一般社団法人日本老年医学会、公益財団法人母子衛生研究会

以上 60 機関・団体・学会(順不同)

6. 特別協賛 株式会社伊藤園、ゼスプリ インターナショナル ジャパン株式会社、株式会社ヤクルト本社、株式会社 明治、第一出版株式会社 (栗田興産株式会社)

協 賛 さとの雪食品株式会社、一般社団法人日本即席食品工業協会、株式会社林原、味の素株式会社

以上 9 企業・団体 (順不同)

7. 具体的事業

(1) 栄養ワンダー2022

栄養の重要性と管理栄養士・栄養士の職能認知・普及を目的に、病院、福祉高齢施設、小中学校、企業等の管理栄養士・栄養士の活動先で、施設利用者あるいは地域住民を対象に栄養に関するイベントを開催しました。

コロナ禍ではありましたが、管理栄養士・栄養士の参加者数、一般参加者数ともに 2017 年度からの実施以降、過去最大の参加者数となりました。

●実施期間：2022 年 6 月 18 日 (土)～8 日 31 日 (水)

- 参加管理栄養士・栄養士数：5,047 人
- 開催箇所数：1,894 カ所
- 一般参加者数：214,899 人

(2) 「ムーミン」×「栄養の日」オリジナルバッジ

より多くの会員に「栄養の日」の活動に参加してもらえるよう、「ムーミン」とコラボレーションしたオリジナルバッジを作成、申込者に送付しました。栄養ワンダーの実施時、就業時、さらにはSNSを通じて、広く国民に管理栄養士・栄養士の活動を知ってもらい、身近に感じてもらうこと、そして、「栄養の日」を機会に栄養に興味をもってもらうことを目的としました。

- 会員申込者数：10,000 個
- 都道府県栄養士会配布数：5,000 個
- アジア栄養士会議参加者制作数：1,500 個



※左から会員申込者用、アジア栄養士会議参加者用、都道府県栄養士会配布用

(3) 栄養ワンダー・オンライン 2022

栄養の重要性と管理栄養士・栄養士の職能認知・普及を目的に、管理栄養士・栄養士それぞれが自身の SNS (Instagram、Twitter) に、「栄養の日」オリジナルバッジを身につけた様子、日々の管理栄養士・栄養士業務での「サステナブルな活動」、「サステナブルなレシピ」を投稿し、情報を発信した。また、一般投票から「サステナブルに食べるためのレシピ」オブ・ザ・イヤー2022を発表した。

- 実施期間：2022年6月20日(月)～8月31日(水)
- 「栄養ワンダー・オンライン」参加管理栄養士・栄養士数：996 人
- 「栄養ワンダー・オンライン」総投稿数：2,243 投稿
- 「栄養ワンダー・オンライン」国民へのリーチ数：2,929,177 リーチ

(4) 特設 Web サイト

「日本栄養士会ホームページ：www.dietitian.or.jp」(管理栄養士・栄養士向け)と、「NU+ (ニュータス)：www.nutas.jp」(国民向け)と連動した特設 Web サイト (www.nutas.jp/84/)「栄養の日・栄養週間 2022」を公開し、「栄養と環境」をテーマに、管理栄養士・栄養士ならではの食事や活動を、「自分のために、地球のために サステナブルに食べよう」というメッセージで発信しました。

- 公開期間：2022年7月11日(月)～
- 特設 Web サイト閲覧数 (8月31日時点)
 - ↳ ユーザー数：103,401
 - ↳ セッション数：130,422
 - ↳ PV 数：262,034

(5) 市民公開講座・オンライン 2022

市民一人ひとりの健康・栄養に対する関心が高まる中、市民の多様な情報提供要求に応えることを目的として、動画3本をYouTubeと特設Webサイトにて公開。小泉進次郎元環境大臣、元AKBの高橋みなみさん、Women's Health編集長の影山桐子さん、管理栄養士のインスタグラマー倉嶋里奈さんをゲストとして迎え、「栄養と環境」をテーマに管理栄養士・栄養士の職能認知を図りました。

- 公開日：2022年8月1日（月）1本公開、4日（木）2本公開
- 視聴回数（3本合計）：298,983回（8月31日時点）
- 公開動画
 - ・世界のために、今、栄養ができること。（小泉進次郎元環境大臣ほか）/44,313回
 - ・サステナブルに食べるってどういうこと？（高橋みなみほか）/192,254回
 - ・“ワタシ流”サステナブルライフ（影山桐子ほか）/62,416回
- 協力：株式会社ヤクルト本社、株式会社明治

(6) 広報活動

メディア向けイベント（市民公開講座の公開収録）の開催のほか、プレスリリースの配信を実施。タレントの高橋みなみさんを起用した市民公開講座は、地上波民放キー局の情報番組において取り上げられたほか、大手ポータルサイト「ヤフー」では主要ニュースを紹介する『ヤフー・トピックス』に掲載されるなどの反響を見せました。

- 広報活動の掲載メディア数（9月28日時点）
 - └ 掲載メディア数：テレビ3、新聞雑誌27、Web349
 - └ 推定リーチ数：299,800,083リーチ
 - └ 広告換算値：209,989,626円

(7) 制作物

① ポスター（A3判）



② ちらし（A4判、両面）



③ 「栄養ワンダーブック」(B5判、24ページ)



(7) アンケート調査

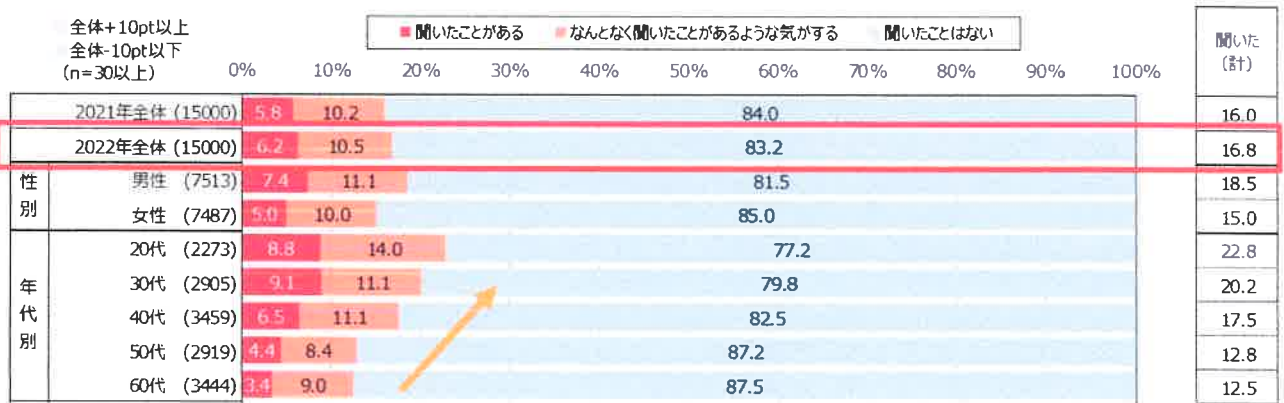
栄養ワンダー、栄養ワンダー・オンライン、市民公開講座の各実施者、一般参加者へのアンケート調査を実施した。2017年より実施してきた「栄養の日・栄養週間」の認知度調査を行った結果、「栄養の日」は16.8%、「栄養週間」14.8%であった

※参考：2021年度調査「栄養の日」16.0%、「栄養週間」14.2%

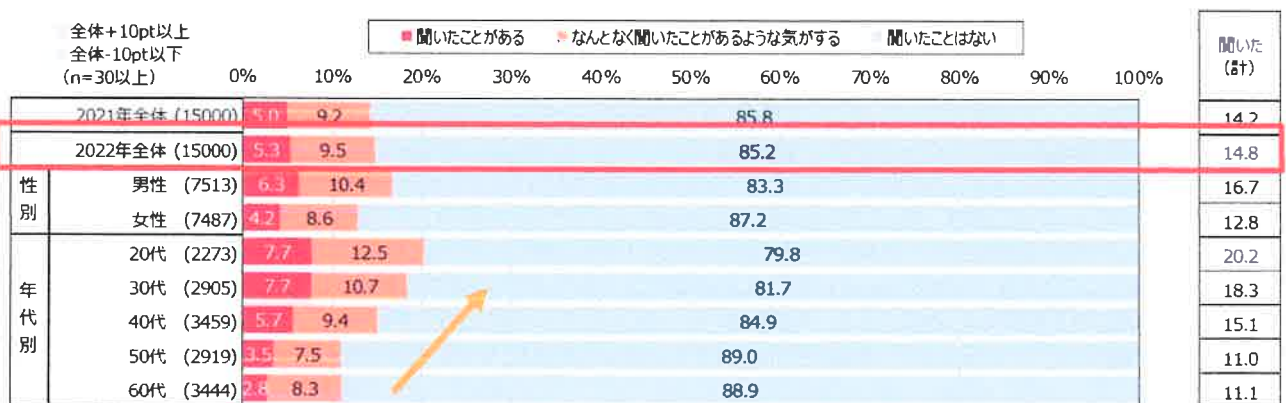
調査会社が保有するアンケートパネルへの調査を案内

スクリーニング：全国20歳～69歳男女15,000人 性年代の人口構成にあわせたサンプル構成

●あなたは「8月4日は栄養の日」ということを聞いたことがありますか。(お答えは1つ)



●あなたは「8月1日～8月7日は栄養週間」ということを聞いたことがありますか。(お答えは1つ)



2022年度「全国栄養士大会・オンライン」 実施報告

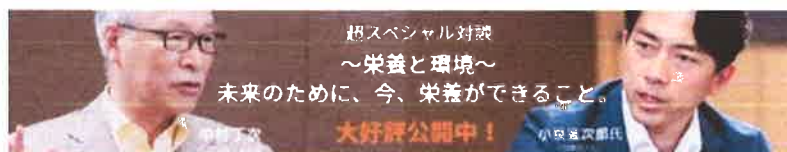
2023年2月



開催概要

CONFIDENTIAL

テーマ「栄養と環境 ～地球を元気に、未来を笑顔に～」



- 期 間：2022年7月8日（金）～8月7日（日）
ティザー（予告）サイト：4月13日（水）～7月7日（木）
- 会 場：公益社団法人 日本栄養士会ホームページ内 (<https://www.dietitian.or.jp/>) に
特設ページを設置
- 主 催：公益社団法人 日本栄養士会
- 対 象：管理栄養士・栄養士・養成校学生
- 受講料：公益社団法人 日本栄養士会会員、養成校学生は無料
- 単 位：実務研修90-110全分野共通 講義各1単位（ただし上限は8単位とする）
- 協 賛：アサヒ飲料株式会社、味の素株式会社、NPO法人うま味インフォメーションセンター、
大塚製薬株式会社、花王株式会社、カゴメ株式会社、カリフォルニアくるみ協会、
キューピー株式会社、「米粉でやさしい嚥下食」コンソーシアム、さとの雪食品株式
会社、一般社団法人Jミルク、ソフトム株式会社、SOMPOヘルスサポート株式会社、
第一出版株式会社、太陽化学株式会社、公益財団法人ダノン健康栄養財団、低たんぱく
質食事療法臨床研究プロジェクト研究協力者会議、トータル・ソフトウェア株式会社、
日清オイリオグループ株式会社、株式会社ニッポン、一般社団法人日本即席食品工業
協会、一般社団法人日本食品添加物協会、株式会社 明治、株式会社ヤクルト本社
（全24社・敬称略）

1ヶ月の期間中、特設ページ内に、
①講演動画、②スペシャル対談動画、③オンライン展示会の、
3種のコンテンツを常設、下記のとおり動員した。

総参加者数 (UU) /昨年

13,799人/15,972人
日ごと平均：459.9人/261.8人

総参加者数 (のべ) /昨年

124,120人/154,117人
日ごと平均：4137.3人/2526.5人

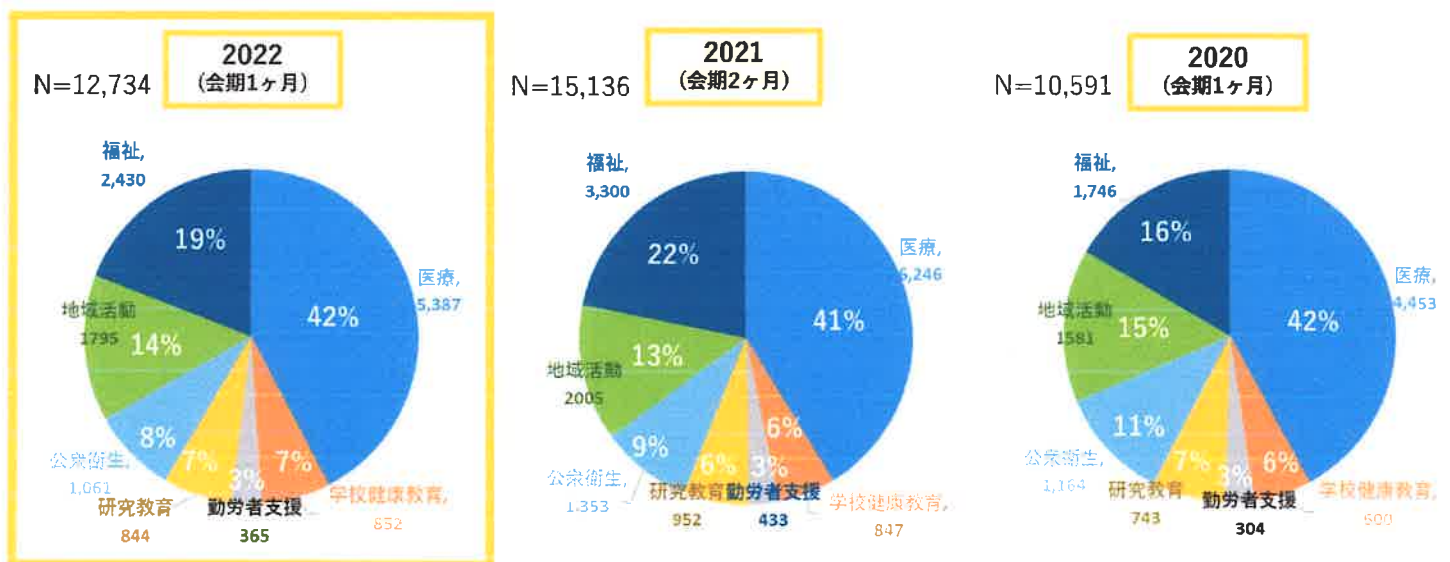
※サイトアクセスログより集計
※2022年7月5日（金）～7月7日（日）集計

総セッション数



- 今年度期間1か月間で、総参加者数 13,799人、のべ 124,120人。
昨年度期間2か月で、総参加者数 15,972人、のべ 154,117人。
- 会員約50,000人のうち、およそ3割が来場。なお、養成校学生の来場は1,005名（昨対150.7%）。

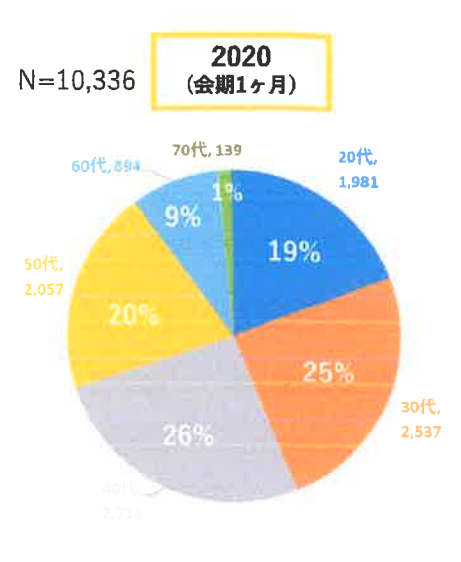
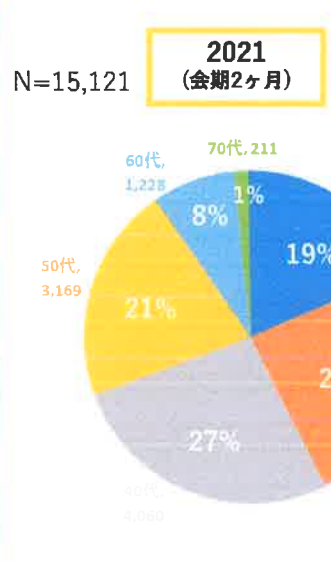
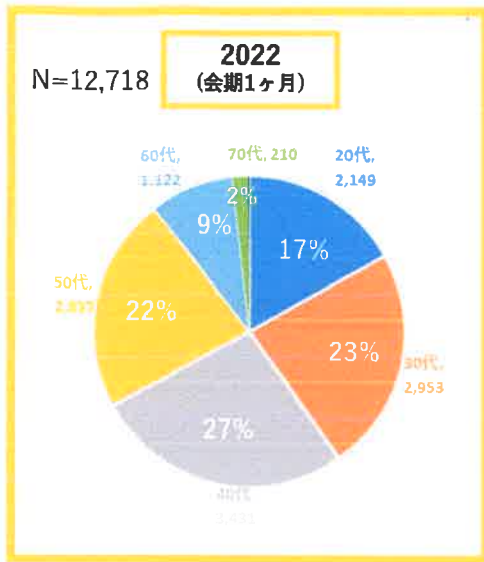
会員データとサイトへのアクセスログデータのクロス集計から、
参加者13,799人の所属職域（活動領域）は以下のとおり。



※サイトアクセスログより集計
※会生・訪問者アカウントを除く

割合に例年とは大きな変化はないが、COVID-19第7波の現場対応の影響で、医療・公衆衛生、福祉の参加者が若干減りこんでいる。

会員データとサイトへのアクセスログデータのクロス集計から、参加者13,799人の年代は以下のとおり。



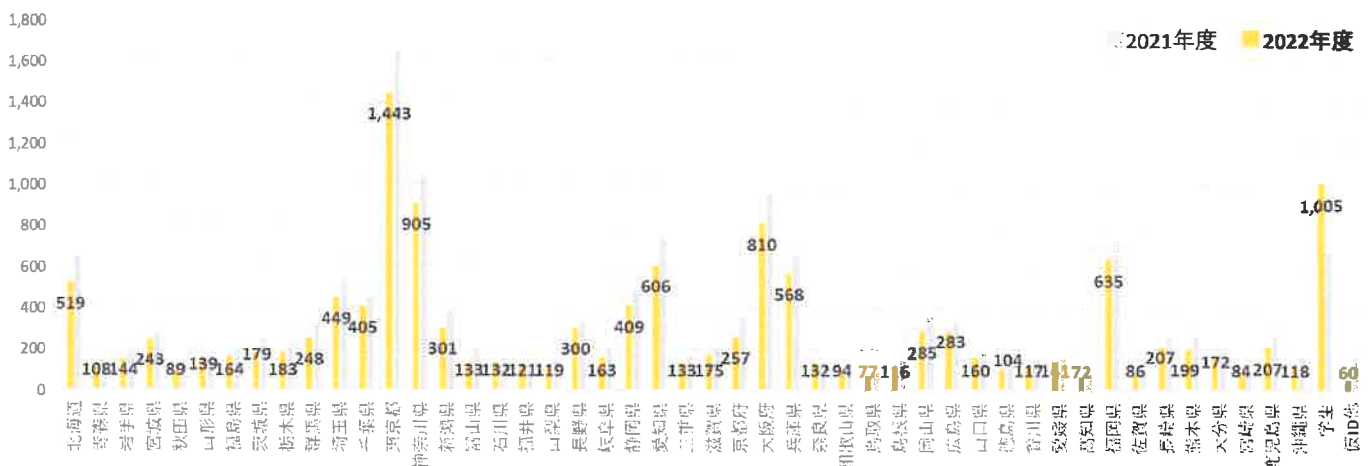
* サイトアクセスログより集計
* 学生・特別付与アカウントを除く

参加者の年代は、昨年度に引き続き、会員の構成比率とほぼ同等。
なお、各年代の参加率の平均は23.1%で、全世代からまんべんなく参加があった。

会員データとサイトへのアクセスログデータのクロス集計から、参加者13,799人の所属都道府県栄養士会は、以下のとおり。

参加者所属都道府県

N=13,799



おおむね会員比率と比例している。また、集合型研修会の場合には、開催地近隣の参加が多勢を占める一方、オンラインにより、全国の会員の参加が顕著に。

* サイトアクセスログより集計
* 2022年7月8日（金）～8月7日（日）集計

会員データとサイトへのアクセスログデータのクロス集計から、参加者13,799人の昨年度と今年度の大会参加履歴は以下のとおり。

今年度参加者内訳

2022年度参加者
13,799名



今年度参加者13,799人のうち、リピーター率は6割、初参加は3割となった。

「栄養の日・栄養週間 2023」実施要領（案）

1. 趣 旨 （公社）日本栄養士会は 2016 年に、全ての人の健康の保持・増進の実現に向けて、「栄養の日（8月4日）」、「栄養週間（8月1日～8月7日）」を制定しました。

日本栄養士会は、2021年12月に開催された「東京栄養サミット2021」において、SDGsの達成に向けて世界の栄養不良を撲滅することを目指し、二つのコミットメントを宣言しました。一つは、管理栄養士・栄養士のいない国への管理栄養士・栄養士等の教育養成、さらに栄養士制度の創設や持続可能な栄養改善基盤の構築を支援すること、もう一つは、管理栄養士・栄養士のいる国において、人材のスキルアップの支援などを通じて栄養改善を促進すること。長寿国日本を支えた栄養士100年の歴史と得られた知見をもって、国内外の栄養不良の二重負荷の解決に向けて、動きを加速させています。

こうしたなか、今日の日本では、食に関するさまざまな情報があふれ、各種メディア、インターネットなどの偏った情報に苦慮する国民は少なくありません。私たち管理栄養士・栄養士は、科学的根拠に基づく栄養情報を国民に発信し、日本の栄養課題の解決に向けて活動することが使命であると考えています。

2023年度の「栄養の日・栄養週間」は、厚生労働省が「東京栄養サミット2021」における日本政府コミットメントを踏まえて掲げる「誰一人取り残さない日本の栄養政策」において、産学官等連携による推進体制として立ち上げた、「健康的で持続可能な食環境戦略イニシアチブ」が推進されるなか、「食塩（ナトリウム）の過剰摂取」、「若年女性のやせ」、および「経済格差に伴う栄養格差」の栄養課題に対して「間食」に着目。食習慣の改善に意思がない、栄養に偏りがあるなどの要因に対して、間食のシーンから、管理栄養士・栄養士ならではの食べ方の工夫について伝え、一人ひとりにあった栄養と食のあり方を提案します。

「栄養の日・栄養週間 2023」では、これらを宣言するとともに、管理栄養士・栄養士の活動の場で国民運動として活動していきます。

2. 主 催 公益社団法人 日本栄養士会、47 都道府県栄養士会
3. 期 間 2023年8月1日（火）～7日（月）を中心とした6月から8月
（「栄養の日」：8月4日、「栄養週間」：8月1日～7日）
4. テーマ 間食の、すすめ！
5. 後 援（予定）

厚生労働省、外務省、農林水産省、文部科学省、環境省、消費者庁、内閣府食品安全委員会、国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所、国立研究開発法人国立長寿医療研究センター、公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本歯科医師会、公益社団法人日本薬剤師会、公益社団法人日本看護協会、公益社団法人日本理学療法士協会、一般社団法人日本作業療法士協会、一般社団法人介護支援専門員協会、公益財団法人健康・体力づくり事業財団、公益財団法人骨粗鬆症財団、公益財団法人児童育成協会、公益財団法人食品等流通合理化促進機構、一般社団法人全国栄養士養成施設協会、公益社団法人全国学校栄養士協議会、社会福祉法人全国社会福祉協議会、公益社団法人全国老人福祉施設協議会、公益社団法人全国老人保健施設協会、公益社団法人全日本病院協会、一般社団法人日本アレルギー学会、特定非営利活動法人日本栄養改善学会、一般社団法人日本栄養学教育学会、公益社団法人日本栄養・食糧学会、一般社団法人日本癌学会、日本給食経営管理学会、日本外科代謝栄養学会、一般社団法人日本健康・栄養システム学会、特定非営利活動法人日本高血圧学会、一般社団法人日本骨粗鬆症学会、一般社団法人日本在宅栄養管理学会、一般社団法人日本サルコペニア・フレイル学会、一般社団法人日本循環器学会、一般社団法人日本小児アレルギー学会、一般社団法人日本小児臨床アレルギー学会、一般社団法人日本食育学会、一般財団法人日本食生活協会、公益社団法人日本食品衛生協会、一般社団法人日本腎臓学会、特定非営利活動法人日本スポーツ栄養学会、公益財団法人日本スポーツ協会、一般社団法人日本摂食嚥下リハビリテーション学会、公益財団法人日本知的障害者福祉協会、一般社団法人日本透析医学会、一般社団法人日本糖尿病学会、一般社団法人日本動脈硬化学会、公益社団法人日本認知症グループホーム協会、一般社団法人日本病院会、一般社団法人日本病態栄養学会、一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会、一般社団法人日本臨床栄養学会、一般社団法人日本臨床栄養代謝学会、一般社団法人日本老年医学会、公益財団法人母子衛生研究会（計 60 団体） ※順不同

6. 実施企画

- ・栄養ワンダー 2023
- ・栄養ワンダー・オンライン 2023
- ・特設 Web サイト
- ・市民公開講座
- ・広報活動

7. 開催場所

- ・栄養ワンダー 2023（全国活動先および 47 都道府県栄養士会イベント）
各管理栄養士・栄養士活動先（2,000 か所程度）、47 都道府県栄養士会各イベント会場
- ・栄養ワンダー・オンライン 2023
SNS 日本栄養士会「NU+（ニュータス）」内 (<https://www.nutas.jp/84/>)
- ・特設 Web サイト
日本栄養士会ホームページ内 (<https://www.dietitian.or.jp/84/>)
日本栄養士会「NU+（ニュータス）」内 (<https://www.nutas.jp/84/>)
- ・市民公開講座
特設 Web サイト内

8. 「栄養の日・栄養週間 2023」の概要

(1) 構成

● 栄養ワンダー 2023

栄養の重要性と管理栄養士・栄養士の職能認知・普及を目的に、病院、福祉高齢施設、小中学校、企業、行政機関等の管理栄養士・栄養士の活動先で、施設利用者あるいは地域住民を対象に栄養に関するイベントを開催します。

● 栄養ワンダー・オンライン 2023

栄養の重要性と管理栄養士・栄養士の職能認知・普及を目的に、管理栄養士・栄養士それぞれが、テーマに基づいた投稿を自身の SNS に投稿します。

● 特設 Web サイト

「日本栄養士会ホームページ：<https://www.dietitian.or.jp/84/>」（管理栄養士・栄養士向け）と「NU+（ニュータス）：<https://www.nutas.jp/84/>」（国民向け）で、特集コンテンツ、栄養ワンダーの情報等、「栄養の日・栄養週間 2023」に関連した記事を掲載します。

● 市民公開講座

市民一人ひとりの健康・栄養に対する関心が高まる中、情報提供の機会を設け、市民の多様なニーズに応えることを目的として、市民公開講座を開催します。

● 広報活動

日本の栄養課題および「栄養の日・栄養週間 2023」に関連した施策の認知拡大を目的に、広報活動を実施します。

(2) 日程

- ・ 栄養ワンダー 2023：2023年6月24日（土）～8月31日（木）予定
- ・ 栄養ワンダー・オンライン 2023：2023年7月1日（土）～8月31日（木）予定
- ・ 特設 Web サイト：2023年7月1日（土）～8月31日（木）予定
- ・ 市民公開講座：2023年7月～8月予定
- ・ 広報活動：2023年6月～8月予定

2023年度「全国栄養士大会・オンライン」の開催について

1. 期 間

2023年6月28日（水）～9月3日（日）の2か月間

2. 主 催

公益社団法人 日本栄養士会

3. 趣 旨

全国栄養士大会は、全国の管理栄養士・栄養士が一致して取り組むべき課題を協議し、対応や実践の方法を共有、現場で使える知識やスキルを身につけることを目的とする。

4. テーマ

「話術～AI、ICT時代を勝ち抜く手段～」

5. 会 場

日本栄養士会ホームページ内 (<https://www.dietitian.or.jp/>) 特設ページ

6. 来場目標者数

管理栄養士・栄養士20,000人

7. 受講料

(公社) 日本栄養士会会員、養成校学生は無料。

8. 内 容

(1) 講演：約20本（うちスポンサー講演：約10本）

(2) オンライン展示会：約20社

・賛助会員からの情報提供（企業名、ロゴ、商品情報、問い合わせフォーム、資料掲載、PR動画掲載）

(3) 広告：約20社（抄録広告：約10社・デジタル広告：約10社）

9. 生涯教育単位

60分講演視聴後、アンケートに回答することにより実務研修90-110全分野単位付与。
ただし、上限8単位。